

開講年度	令和6年度	開講課程	博士課程
授業名	臨床・社会薬学特別演習 I		
開講キャンパス	伏虎	教室	各研究室
科目区分	特別科目	配当年次	1～2年次
必修・選択の別	選択	単位	2単位
対象学生	—	使用言語	日本語
キーワード	(病院薬学) 医療薬学、臨床薬理学 (社会・薬局薬学) 健康行動科学、地域薬局 (医療薬剤学) 医療薬学、臨床薬理学 (医療情報薬学) 規制科学、医薬品情報学 (医療開発薬学) 神経薬理学、医療薬学		
担当教員 (下線：科目責任者)	医		
	薬		
	(病院薬学) 教授 中川貴之、准教授 松本みさき (社会・薬局薬学) 教授 <u>岡田 浩</u> (医療薬剤学) 教授 江頭伸昭、准教授 山田孝明 (医療情報薬学) 教授 伊藤達也、講師 阿部寛康 (医療開発薬学) 教授 今井哲司、准教授 山下 哲 (腫瘍薬物療法学) 教授 須野 学		
授業の概要	医療薬学、臨床薬理学、地域薬局、慢性疼痛、がん化学療法、医薬品情報・レギュラトリーサイエンスなど、臨床・社会薬学分野の専門分野について調査し、概要を学ぶ。また、最新の研究成果や医薬品の審査プロセスなど、自らの研究課題について発表・議論することで理解を深める。		
到達目標	(病院薬学) 病院薬学に関する最新の研究成果および研究手法に関する知識を修得するとともに、それらを考察し、的確にプレゼンテーションする能力を身につける。 (社会・薬局薬学) 社会薬学、特に薬局の地域医療連携について、国内外の実践例を知るとともに、実際に実施する上での基礎的な能力を身につける。 (医療薬剤学) 本特別演習は、医療薬学、臨床薬理学等に関する学生の研究テーマの発表を中心に報告会形式で行い、自身の研究内容の深い理解とともに理論立てて議論できる能力を身につける。 (医療情報薬学) 医薬品や再生医療等製品の開発に必要なレギュレーションや規制当局の審査プロセスを学び、薬剤師としての医薬品情報処理能力の深化やレギュラトリーサイエンスの能力を修得する。 (医療開発薬学) 臨床におけるアンメットメディカルニーズや、その分野の最新の研究知見について学ぶ。また、研究計画をデザインをする上での情報収集能力や、必要となる神経薬理的な実験手技を身につける。臨床問題解決型研究を推進するための能力を修得する。 (腫瘍薬物療法学) 薬物個別化療法において薬物動態に変動を及ぼす因子を列挙できる。		

授業計画	<p>(病院薬学) 医療薬学、臨床薬理学等の病院薬学に関する概説的な講義を行う。また病院薬学に関する最新の文献を読み、内容を整理・考察し、発表する機会を設け、教員と議論を行う。(中川貴之/松本みさき)</p> <p>(社会・薬局薬学) 国内外の薬局での公衆衛生への貢献について紹介する。実際に各人が海外の薬局のガイドなどについて調べて発表する機会をつくり、全体で議論を行う。(岡田 浩)</p> <p>(医療薬剤学) 医療薬剤学の研究報告会を行う。パワーポイント等によるプレゼンテーション形式で発表し、質疑討論を行う。(江頭伸昭/山田孝明)</p> <p>(医療情報薬学) 医薬品や再生医療等製品の開発に必要なレギュレーションや規制当局の審査プロセスを学び、薬剤師としての医薬品情報処理能力の深化やレギュラトリーサイエンスの能力を修得するよう指導する。(伊藤達也/阿部寛康)</p> <p>(医療開発薬学) 慢性疼痛や睡眠障害の神経科学的な発症機序について講義を行う。また、最新の文献を読み、発表する機会を設け、教員と議論を行うことにより最新知見に関する理解を深める。(今井哲司/山下 哲)</p> <p>(腫瘍薬物療法学) がん化学療法個別化について、病態及び薬力学・薬物動態学的観点に基づいて理解を深める。(須野 学)</p>
授業の方法・形態	演習を中心とする。
使用するメディア	パワーポイント等によるスライド資料を使用する。
成績評価の基準	研究への取組100%(討議内容、ディスカッションへの参加姿勢、研究技能の修得状況、発表内容など)によりS(90点以上)、A(80~89点)、B(70~79点)、C(60~69点)、D(59点以下)の5段階で評価し、C以上を合格とする。
授業時間外の学修に関する指示	教科書・参考書が指定されている場合は予習を行うとともに、各回終了後には復習を行うこと。そのほか、各担当教員の指示に従うこと。
オフィスアワー(学生からの質問事項等への対応)	担当教員により異なるため、希望する場合はメール又は電話により予約すること。
教科書・参考書	特に指定しない。